



命を守る!

レスキュー の仕事①

最前線！レスキュー隊



東京消防庁の消防救助機動部隊 (愛称：ハイパーレスキュー)

もくじ

レスキュー隊の活やく 4

レスキューの装備 6

レスキューの資器材 8

レスキューの車両 10

レスキューの点検 12

レスキューの訓練 14

レスキュー隊員の1日 16

レスキュー隊とともに活やくする救急隊 18



災害や事故の起こっている現場で、救助に当たっているレスキュー隊の様子を、みなさんは、ニュースなどで見たことがありますか。このシリーズでは、さまざまなレスキューの仕事についてくわしく紹介しています。第1巻では、ぼくたちレスキュー隊の仕事を中心に、レスキューの最前線をいっしょに見ていきましょう。

特別高度救助隊の活やく 20

ハイパーレスキューの資器材 24

ハイパーレスキューの車両 28

ハイパーレスキューの訓練 30

NBC災害への対応 32

効果的に情報を集め、災害の最前線で活動する
～東京消防庁・即応対処部隊～ 36

船やヘリコプターを使った消防のレスキュー 40

レスキュー隊の歩み 42

レスキュー隊の種類 44

レスキュー隊員になるには 46

この巻では、主に消防のレスキューを取り上げています。

- ・消防に置かれている部隊のうち、事故や災害のときに人の命を救う部隊を「救助隊」といい、広く「レスキュー隊」と呼んでいます。
- ・救助に関する高度な知識や技術をもつ「特別救助隊」や「高度救助隊」もあります。
- ・大規模な災害などに対応し、より高度な知識や技術をもつ「特別高度救助隊」は、消防によって、それぞれ呼び名があります（21ページ参照）。
- ・東京消防庁では「消防救助機動部隊」（愛称：ハイパーレスキュー）が「特別高度救助隊」に当たる部隊です。



レスキュー隊の活やく

「レスキュー」とは、「救助」を意味するよ。レスキュー隊は、火事や災害、事故などの現場に出動し、人命を救う活やくをする人たちの組織なんだ。レスキュー隊によって、多くの命が救われているよ。

人命を救うことが第一の使命

レスキュー隊の第一の使命は、人の命を救うことです。災害や事故などで、助けがないと失われてしまう命を、さまざまな方法で守り、安全な場所に移します。

災害や事故の現場では、危険なことも多いため、日ごろから準備している特別な装備や道具を用いながら、いち早く人を助け出します。



東京消防庁のレスキュー隊。



救助の現場では、
いっしゅんも
気をぬけないよ。



3連はしごを使って、低い場所から人を助け出しているところ。



こう水で家に取り残されてしまった人を、ゴムボートに乗せて救助している様子（2019年10月 三重県伊勢市）。



台風でたおれた自動車の中にとじこめられた人を助け出している様子（2018年9月 大阪府大阪市）。



レスキューの装備

レスキュー隊員には、救助をするための特別な装備があるよ。人の命を助けるとともに自分も無事にもどってくるために、自分の体の安全を守るための装備も工夫されているんだよ。

レスキュー隊員の基本装備



装備をする前の服装。

上着

オレンジ色は、レスキュー隊員であることを表す。熱に強い素材でできている。

ズボン

大きなポケットがついていて、グローブも入れられる。

ロープとカラビナ

レスキュー隊員の基本の道具。カラビナで、ロープとロープを結んだり、ロープを担架につないだりできる。



ヘルメット (保安帽)

上から落ちてくるものなどから頭を守る。救助のときは必ずかぶる。あごひもをしっかりとめて固定する。

ハーネス

高い所で作業をするときに、支点になる所とつなげて、落下を防ぐ。

グローブ

すどい石や割れたガラスなどから手を守る。

編み上げぐつ

ひもでしっかりしばり、ぬげないようになっている。くぎをふんだり、石が落ちてきたりしてもけがをしないように、強化されている。

火災が起こっている現場での装備

ほのおから体を守る防火衣を着ます。また、空気呼吸器を身につけて、けむりを吸いこまず、息ができるようにします。さらに高温の場所に入るときは、耐熱服を着ます。

熱やけむりから身を守る服装だよ。



防火衣

熱に強い素材を重ねてつくられている。短い時間なら、熱やほのおにたえられる。

ヘッドライト

暗い所を明るく照らす。

携帯警報器

つけている人が動かない状態が続くと、警報が鳴る。自分で警報を出すこともできる。



マスクをつけ、ヘルメットについている布で首を守る。

空気呼吸器

火事の現場で呼吸をするための装備。空気の入ったボンベをせおっている。

反射材

けむりの中や夜など、ものが見えづらい状況でも周りから見えやすく、自立つようにつけられている。





レスキュー隊員の1日

レスキュー隊員は、通常は、24時間制の勤務をしている。その間は、消防署に待機し、出動に備えるよ。出動がなければ、資器材や車両などの点検や整備、また、訓練やトレーニングをする。点検や訓練をはじめ、そうじや食事まで、隊員は勤務の間、行動をとともにしているよ。

レスキュー隊員の1日の例

午前8時30分に勤務が始まり、前日の部隊と交代する。これを、大交替という。このとき、前日の部隊から業務の引きつぎをする。



大交替では、全員で体操をする。

夕方に車両のライトが正しくつかなどの日夕点検をする。



資器材の点検は、声を出して確認しながら、すばやく、ていねいに行く。



防火衣を着て出動する想定を演習をする。



食事や仮眠はさんで、24時間勤務するんだよ。

したく

大交替

1次点検

2次点検

訓練

昼食

トレーニング・訓練

夕食

日夕点検

事務連絡

事務処理・夜間訓練

仮眠

起床

朝食

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

0

1

2

3

4

5

6

7時

すべての車両のエンジンをかけて、正常かどうかを点検する。また、資器材の数を点検する。

資器材が正しく作動するかどうかを確認する。

体力を維持し、向上させるために、仲間とともにトレーニングを行う。

食事は当番を決めて作り、部隊のメンバーがいっしょに食べることが多い。

災害出場に関する報告書の作成など、さまざまな事務処理の仕事をする。

勤務の日は、24時間いつでも出動できるように備えている。夜の仮眠の間も命令があれば、すぐに出動する。



大交替の後に、部隊ごとにその日のスケジュールの確認などをする。



装備の点検をする。



車両の点検をする。



資器材の点検をする。



トレーニングをしている様子。



救助のための訓練をする。訓練は天気にかかわらず行う。

はみだし RESCUE!

消防署員は、朝から夕方まで働く毎日勤務と、朝から翌日の朝までの交替制勤務とに分かれている。交替制勤務は午前8時30分から次の日の午前8時40分までが勤務時間（東京消防庁の場合）。

はみだし RESCUE!

仮眠中でも出動の知らせがあれば、レスキュー隊員はすぐに起きて出動する。そのために、ねているときもすぐに出動できる服装をしている。



ハイパーレスキューの車両

ハイパーレスキューには、高度な救助のための車両が備えられている。隊員は、これらの特別な車両を使いこなせることが大切なんだ。勉強して車両の知識を深めるとともに、訓練を通して車両をあつかう技術をみがいているよ。

救助車

飛行機で運べるよう、小型につくられている救助車です。必要な資器材を分けて積み、2台ひと組で使われます。道路が整備されていない場所でも走ることができます。



小型でも多くの資器材を積んでいる。

クレーン車

作業のじゃまになる自動車などを持ち上げて移動します。運転席に座ったまま、クレーンを操作することができます。最大で、16tのものまで持ち上げることができます。



クレーンで自動車などの障害物をつり上げることができる。

送水車

消火栓が使えないようなときでも、遠くの海や川などからポンプでくみ上げて水を送ることができます。最大で50m下にある水をくみ上げ、1分間に8000Lの水を送ることができます。ホース延長車と組みになって活やくします。



車両に積んであるポンプで、大量の水をくみ上げる。

重機搬送車

重機を運ぶための車両です。地震や土砂くずれによる障害物や、火災でたおれる危険のある建物などを取り除くための重機を運びます。



車体の後ろの車体昇降装置を地面につけ、スロープをつくって重機をおろす。



ホース延長車

送水車のポンプでくみ上げた水を遠くに送るホースを積んでいきます。ホースは、約2km先まで水を送れる長さがあります。車両を走らせて、ベルトコンベアのようにホースを短時間でしまえるホース回収装置も備わっています。

長くのばせるホースを積んでいる。



屈折放水塔車

高い所の消火活動ができます。化学工場の火災など、水では消せない場合に、あわの混じった水を出して消します。

放水塔の先にカメラがついている。



車両の後ろにある操縦席から、放水塔を操作する。放水塔は最大で22mの高さまでのばせる。



レスキュー隊員になるには

消防のレスキュー隊員や特別高度救助隊員として活やくするま
では、消防官になって経験を積み、研修を受けて知識と技術
を身につけていくよ。

消防のレスキュー隊員への道

高校や大学を卒業したのち、消防のレスキュー隊員になるには、まず消防官になる必要があります。

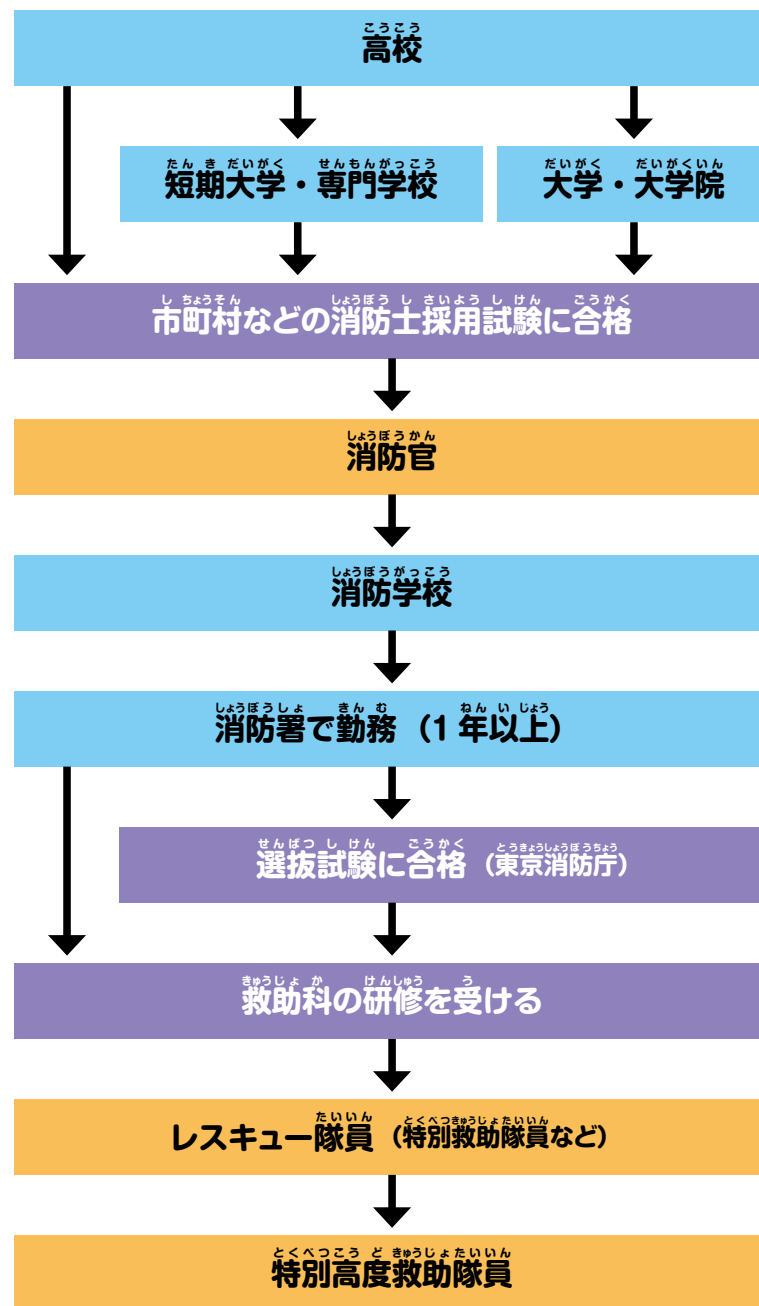
市町村などが行う消防士（職員）採用試験に合格すると、消防官になることができます。消防官になると、各都道府県と政令指定都市にある消防学校で、消防に関する教育や訓練を受けます。

それが終わると、所属している市町村などの消防署に配属され、そこで消防士として勤務します。消防署では、火事の現場に出動するなど、現場での活動を通じてさまざまな経験をします。

レスキュー隊員になるには、消防官として1年以上の経験を積んだあと、国が設置する消防大学校などで、救助科の研修を受けます。ただし、東京消防庁では、救助科の研修を受けるために選抜試験に合格することが求められます。

救助科の研修を終え、定員に空きがあれば消防署のレスキュー隊に配属されます。

さらに特別高度救助隊員には、レスキュー隊員としての経験を積んだのちに選ばれる場合などがあります。



消防学校で学ぶ

都道府県と政令指定都市に置かれています。全寮制で、原則として6か月間、消防官として必要な初任教育を受けます。防火や防災の知識や技術を身につけ、訓練を受けます。現場で必要な体力や気力もきたえます。



救助科での研修

レスキュー隊員になるための救助科の研修は、各地の消防学校などで行われます。約1か月の期間で、救助活動に関する高度な知識と能力を身につけます。また、救助活動の指導者になる研修もあります。



特別高度救助隊員への道

レスキュー隊員のだれもが特別高度救助隊に入れるわけではありません。その基準は、隊ごとに多少ちがいますが、救助に関する専門的で高度な教育を受け、現場での経験も豊かなことが求められます。また、特しゆな重機を操作する資格がある場合などは、優先して選ばれることもあります。



レスキューへの興味があわいてきたかな？

